



**日章学園九州国際高等学校校長便り 水無月**  
 建学の精神：道義に徹し、実利を図り、勤労を愛す  
 学園スローガン：**自分を磨け**  
 学校教育目標：国際的視野と人間性豊かな心を持ち、自ら学び考え、自己の課題を解決できる生徒を育成する。  
 令和6年(2024年)6月3日(月)校長 屋田伸仁



# 千里の道も一歩から



5月19日(日)は、「えびの京町温泉マラソン大会」が実施されました。本校は、ハーフに11人、5kmに19人、ボランティアスタッフに57人が参加しました。大会参加団体の中で、一番多い選手団とボランティアスタッフです。えびの市長からも、大変感謝されました。

天気予報では、40%の降雨予想でしたが、当日は曇り時々晴れのすがすがしいマラソン日和でした。私自身、マラソンが趣味ですが、60代後半になると、さすがに気力、体力も年々衰えてくるのを実感しています。だんだんスピードも落ちてきます。今年の大会で特に感じたことがあります。えびののコースは、山道や一般道路もよく開けていて、小高い丘から遠くまで見渡せます。この光景が、プレッシャーになりました。先を走るランナーの集団やゴールのコカ・コーラ工場の建物が、とても遠く小さく見えてしまうのです。え、まだまだ遠いよ、まだまだがんばらないといけないのか、きつい、きつい、……。対策を考えました。遠くを見ないことにしました。一歩、一歩、自分の足の筋肉の感覚を感じながら、自分を励まし、今の瞬間と内面に意識を集中しながら、走り続けました。すると、いつの間にか、ゴールにたどりついた感じでした。今回は、足もつらずに、気持ちよく走れて、爽快感がありました。マラソンも人生も同じだと思います。「千里の道も一歩から」です。過去や未来にくよくよ思い悩まず、今、現在の生き方を大切に、一歩、一歩、前に進みたいと思います。

ゴールでは、ボランティアの方々から、冷たい飲み物の提供やねぎらいの言葉をかけていただきました。おかげで、体だけでなく、心の疲れもすっかり取れました。選手の皆さん、お疲れさまでした。ボランティアスタッフの皆さん、応援していただいた皆さん、本当にありがとうございました。



## 自分の磨き方②



学校だよりの5月号で、自分の磨き方①「習慣について」を紹介しました。今回は②「あいさつ」について考えてみます。本校では、寮生活をしている生徒は、朝、寮の前で服装、身なりのチェックを受けて、歩いて集団登校します。生徒達は学校の門前と生徒昇降口前で整列して、一斉に「おはようございます。」と元気よくあいさつをします。毎日のあいさつ運動のおかげで、気持ちよく学校生活の朝のスタートを切ることができます。

しかし、日常生活のあいさつの様子を観察すると、生徒の中には、相手からあいさつをされてから一応声を出すとか、うつむいて小さな声で言う人もいたりします。あいさつの基本は「自分から、相手の目を見て、笑顔で、大きな声で、心をこめて」言えることだと思います。特に、一番大切なのは、「自分から」あいさつをするということです。自分から心を開けば、相手も心を開いてくれます。あいさつに関して、こんな風に言う人がいます。「あいさつは、人が人として生きていくうえで、最も大切な流儀です。」「あいさつは自分を変える。自分が変われば周りの世界が変わる。」そのとおりだと思います。大学入試や就職試験の面接試験の時だけ、あいさつの練習しておけばいいと考えている人は、大きなまちがいです。日頃から、誰に対しても、気持ちのいいあいさつをしていない人は、大事な本番でできません。あいさつで自分を変え、自分の周りの世界を変えてみませんか。